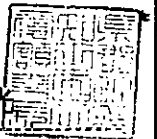


乙

20 幸 都 第 135 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

幸田町長 近藤 徳光



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについては、別添のと
おりですのでよろしくお願いいたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

愛知県額田郡幸田町

- 1、地域の自立・活性化などに資する道路整備を計画的かつ着実に進めるため、道路特定財源の一般財源化にあたっては、地域の実情に配慮し、真に必要な道路の必要額の確保及び補助率の拡大など地方の道路財源の拡充強化を図るよう要望致します。
- 2、国の重点課題である地域の活性化に重点を置いた道路政策を要望致します。
- 3、他省庁との積極的な連携を図り、的確な道路政策を要望致します。
- 4、地方は、社会資本の整備が不十分であり、高規格幹線道路等の整備による地方の自助、自立を強力に支援するよう要望致します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②－１ 地域の現状と抱える課題

愛知県額田郡幸田町

○ 現状

町内を東西に通る名豊道路（国道２３号）岡崎バイパスが平成１９年３月に約５．５kmにおいて全線の暫定供用開始がされました。

岡崎バイパスの供用開始に伴い、名古屋港・中部国際空港等の重要物流拠点へのアクセス道路として交通・物流を支援し、名古屋・豊橋間の地域連携と交流を促進すると同時に、東名高速道路・伊勢湾岸自動車道などの高規格幹線道路、国土軸への広域アクセスの利便性向上により、沿線での企業立地の実現・名古屋圏における住宅需要の受け皿として人口増加となり、その効果が多いに発揮されています。

「名浜道路」は、中部国際空港を始めとする重要拠点への三河南部地域からのアクセス強化を図ると共に、地域連携と交流を促進する重要路線です。平成１９年に碧南市から幸田町間が調査区間指定され事業化に向け第一歩が踏み出された。

○ 課題

全線のうち唯一未整備である蒲郡バイパスの早期開通並びに供用区間の全線の４車線化を期待します。

早期事業化を計るとともに、さらに広域性を図るべく北進させ東名岡崎インターまでの計画とするよう期待します。

町の基幹的な交通を担う広域幹線道路のうち、国道２４８号を南北基幹軸、国道２３号（名豊道路）を東西基幹軸と位置付け、広域交通へのアクセス強化を進めます。

特に、本町及び周辺には、第二東名高速道路、名豊道路、名浜道路、名古屋三河道路など地域高規格道路が計画される恵まれた交通条件を有しており、計画路線の早期整備と第二東名高速道路の（仮）額田ＩＣへのアクセス強化を進めます。

加えて２つの交通基幹軸を骨格に、４つの都市核の形成（ＪＲ幸田駅・三ヶ根駅・新駅（仮）相見駅・地域交流拠点施設）ならびに周辺市街地、集落地、工業地など有機的に結ぶ地域道路網の形成を進めます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

愛知県額田郡幸田町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	幸田駅周辺の商業地は、土地区画整理事業により土地利用の更新（土地の高度利用等）を図り、町の中心核として、商業機能の強化を図ります。	事業に合わせた駅前道路の拡幅整備を図る中で、歩車道分離や無電中化に取り組む事により、賑わいを取り戻すとともに、町の玄関口として魅力ある空間を創造する。	
地球温暖化の防止	幸田町「相見地区」において、特定土地区画整理事業による整備が進んでいるところであり、平成18年度末には、地区中央に走る JR 東海道本線の新駅設置の基本合意がなされ、早期事業に向けて調整を行なっているところである。 こうした状況の中、環境問題への取り組みとして新駅における交通結節点機能の充実（駐車場整備等）並びに、民間事業者も巻き込んだ環境配慮型まちづくりに取り組む。	公共交通の利用促進により自動車交通を抑制するとともに、公民を問わない各種環境対策を実施し、地区レベルでのCO₂排出量を削減する。	